

# はくびつかい

HIRATSUKA CITY MUSEUM VOL 4 NO4 1979. 7. 1  
平塚市博物館 TNO39

## 7月の花 タマアジサイ

梅雨があがり、真夏が訪れると沢ぞいの木かけでタマアジサイの花が咲き始めます。特徴のある丸いつぼみが割れ、粟粒のような白い花の群らがありがこぼれ出します。それを引き立てるようになり囲んでいるのは、がくでできた装飾花です。野生のアジサイにはいくつかの種類がありますが、平塚周辺ではタマアジサイが一番よく見られます。



## 夏期特別展

### 「星座と星たち」

●期間 7月21日～8月30日

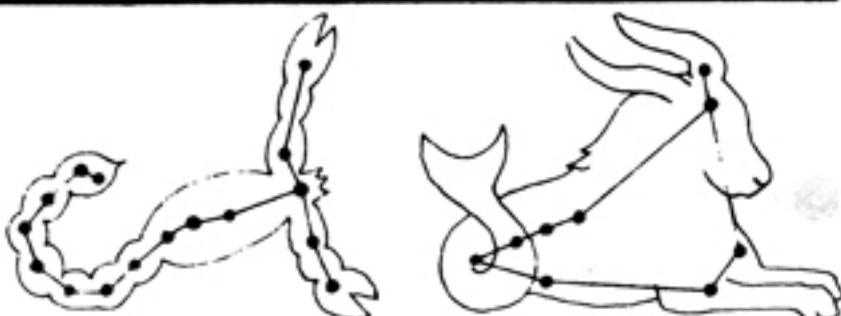
●特別展開催期間中、特別展に関連した行事は、天文講演会、星座早見表を作ろう、星を見る会です。

●天文講演会

○8月9日(木)午後2時～3時、講堂  
講師、県立青少年センター、広瀬洋治氏  
内容 アマチュアによる天体観測について

○8月21日(火)午後2時～3時、講堂  
講師、国立科学博物館、佐々木勝浩氏  
内容 天体観測入門

各定員は60名



●星座早見を作ろう

8月10日(金)午後1時～4時  
内容、星座早見盤を作り、プラネタリウムで実際に使い方を学ぶ。定員40名  
天文講演会、星座早見を作ろうはそれぞれ10日前までに往復ハガキで、定員を越えたら抽選

●星を見る会

7月21日～8月25日の土曜日、午後7時～8時、参加自由

## 各行事・調査員募集案内

### ●自然観察入門講座

#### 1) セミを調べよう。

7月25日(水)・26日(木)

セミの生活やぬけがらの調べ方を学ぶ。

定員30名、申し込み〆切7月20日。

#### 2) 貝化石を調べよう。

8月3日(金) 大磯町虫窓周辺

8月11日(土) 小田原市押切周辺

8月12日(日) 博物館にて整理とまとめ

定員30名(小学4年以上) 7月25日まで往復ハガキで

### ●石仏を調べよう 一石仏調査協力員募集一

市内には多くの石仏があるが、今年はその中で道祖神と庚申塔について所在地・年代・大きさ・祭り方などを調べる。市内を地域に分け分担して調査するが、予備知識は不要。

8月7日午後1時半～ 打ち合わせ

8月8日～16日 各自つごとのよい日に1日調査

8月17日 午前10時～午後4時 まとめ  
定員20名(小学校5年生以上) 申込み〆切7月30日

### ●市民のアトリエー水彩教室参加者募集一

期間 7月24日(火)から8月3日(金)までの9日間。7月30・31日は休み。

時間 午前9時から午後4時まで

内容 静物をモチーフに水彩による写生。

対象 一般男女。なるべく全期間参加できる方。

定員 30名。先着順。

申し込み 往復ハガキに住所・氏名・年齢・電話番号を記入のうえ7月20日までに博物館へ。

材料費 500円

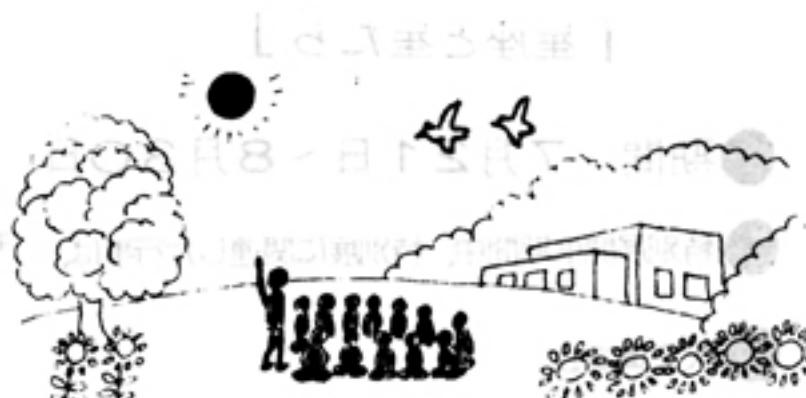
### ●博物館サマーセミナー

8月14日～15日 1泊2日 平塚市土屋七国荘(8月10日午前中に事前の打ち合わせ)

団体生活の中で、植物や地質の観察、天体の観測などを行う。

参加費 1人1,000円(宿泊費・食費・教材費などを含む。)

定員30名(小学校5年～中学校3年の生徒にかかる。父兄同伴は不可)。申込み〆切7月31日。



### ●夏休みのプラネタリウム(7月21日～8月30日)

一般投影 水・木曜日 2時

土曜日 1時40分・3時

日曜日 10時半・1時半

団体投影 7月 水・木曜日 10時

8月 水・木・土曜日 10時

夏休みは混雑するので、早目に入場券のお求めを。団体投影で空席のある場合は一般も入場できる。

### ●行事の申し込みについて

各行事(参加自由のものを除く)に参加を希望する方は、往復ハガキに、住所・氏名・年齢(学年)・電話を明記のうえ、それぞれの〆切日までに博物館にお送りください。博物館の受付けでも申込みはできますが、電話だけの申込みは受けません。また、希望者が定員をこえた場合には、抽選を行います。

### ●夏休み自由研究相談会

7月27日(金)・8月24日(金)午前10時～午後3時 科学教室 参加自由  
理科(地質・生物・天文)、社会(考古・歴史・民俗)の自由研究について、進め方、まとめ方、標本の同定などの相談を、館学芸員が受けます。

## 夏休み期間中の行事日程

7/21		星を見る会 プラネタリウム	↑
22	日	プラネタリウム	
23	休		
24		↑	夏
25	自然観察入門講座	市	プラネタリウム
26	セミを調べよう	民	プラネタリウム
27	●自由研究相談会	の	期
28		ア	星を見る会 プラネタリウム
29	白	ト	プラネタリウム
30	休	リ	彩 特
31	休	エ	教
8/1		室	プラネタリウム
2			プラネタリウム 別
3	貝化石を調べよう	↓	
4			星を見る会 プラネタリウム
5	日		プラネタリウム 展
6	休		
7	石仏を調べよう		
8			プラネタリウム
9			●天文講演会 プラネタリウム
10			星座早見を作ろう 星
11	自然観察入門講座	星を見る会	プラネタリウム
12	日 貝化石を調べよう		プラネタリウム
13	休		座
14	博物館		
15	サマーセミナー		プラネタリウム
16			プラネタリウム と
17	石仏を調べよう		
18		星を見る会	プラネタリウム
19	日		プラネタリウム 星
20	休		
21		●天文講演会	
22			プラネタリウム た
23			プラネタリウム
24	●自由研究相談会		
25		星を見る会	プラネタリウム ち
26	日		プラネタリウム
27	休		
28			↓
29			プラネタリウム
30			プラネタリウム
31	休		↓

## ●寄贈品コーナーの案内

### 洋画家二見利節の遺作

二見利節は二宮出身の洋画作家で、1911年に生まれ、1976年に亡くなるまでの65年の生涯を、ひたすら絵にとりこんだ、湘南地域出身の数少ない画家の一人である。画壇へ登場するのは、昭和13年春陽会賞受賞、その秋の文展特選受賞である。その当時、先輩として仰いだ人は井上三綱である。この文展特選を機会に多くの人々の注目をあつめ、洋画壇の指導的立場にあった木村荘八から賛辞を受けている。二見利節の画業を展望すると、この木村荘八の賛辞に、二見芸術を性格づけている迷が秘められているように思うので紹介しておこう。「二見君は特異の立場を持っています。特異の資質を持っていると云ってもいいのですが、予め絵の格調（スタイル）があつてそれから探求が起ることです。普通は探求に次ぐ探求の後に漸くスタイルを得ます。それを二見君の場合は、人の十年にして良く至り得ないかもしだれぬ格度を初期に於てすでに獲得していました珍らしい有利の立場から仕事に出発した人と云わなければなりません。どうしてそんなに早く効果的にスタイルを樹つるを得るかと云うことは、二見君の資質に帰するほか解釈法がないと云えますさればこの人をして探求研鑽を重ねればすでに一城は手中にあるのであるからこの先き次ぎ次ぎに美術の堅量を抜くことも掌に唾して待つべきです」（原文のまゝ）春陽会賞、文展特選を得た二見の作風は、フォーブ風な筆致の荒い具象で人物を功みに画面構成している。これは、二科の伊藤継郎の画風に親しいと指摘されている。戦争体験後国画会へ会員推挙され、原精一と共に会員となり二見は以前の作風に固執せず、井上三綱、クレー



シャガール、モンドリアン、ピカソ、鳥海青児等の作品研究を秘かに、積極的に行ない、自らの造形感覚を鍛えた。1960年代になってルーフィング材（タールを浸み込ませた黒い屋根防水紙）にクレヨンで描かれた「人生の羅漢」のシリーズは、二見芸術の個性が確立されたと言うことができる。このルーフィングの巻物を骨法ものとして死ぬまで枕元に置き大切にしたといわれるのも、氏自身画業を振り返って、本人独自の世界の到達したものと認めていることに他ならない。今回寄贈品コーナーで紹介している油彩画7点は、明らかに鳥海青児の強い影響を示すもので、特に「熱海」60号は1962年鳥海青児の「石だたみ」（インドペナレス）平塚市博物館所蔵の明らかなる研究によって習作されたものと言えよう。



はくぶつかん VOL 4 No4

〒254 平塚市浅間町12~41

TEL 0463-33-5111 通巻39

印刷 平塚市総務部行政課文書係

発行 平塚市博物館